

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「新しい家庭での生き生きとした生活をめざして」という理念をもとに、地域の行事、催し物に参加したり、外部との交流をもつように心がけている。 事あることに読みあげ啓蒙している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関の壁や面談室に張り出し、職員間で適宜、サービス内容を検討、反映させるよう努力をしている。 初任者研修時は個別に理念を研修、内容に含み、共有化し、啓蒙している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所の玄関、面談室に掲示し、入所時の説明書にも記載されており、その都度家族に説明し、納得、了承を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進委員会を定期的開催し、町内会長、民生委員、老人クラブ会長に参加していただき、交流、理解を得ている。 パンフレットを通所介護利用者や、小・中学校に回覧したり、地域に向けて働きかけを行っている。	今年度は夏祭り、クリスマス会を開催し、家族、地域、住民にも呼びかけ、参加していただいている。来年度はもっと大規模にし、もっとアピールしながら理解を深めていきたい。 実習生、ボランティアの申し出があった時は積極的に受け入れていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員毎月自己評価表を記入し、各々反省点を見出し、職員間で意識向上を図っている。</p> <p>外部評価の結果をもとに、改善策を検討するなど報告書を職員内で見直し、話し合いをしている。</p>	<p>外部評価の結果をもとに毎年、毎年サービスの向上に努力している。</p> <p>評価の意義及び目的を理解している。</p>
6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回定期的に開催し、当事業所の外部評価の結果や、近況報告等を伝え、意見交換を行っている。</p>	
7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホーム便りを作成し、運営推進会議や外部評価の結果を市に提出し、報告を行っている。</p>	
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>全職員が権利擁護、成年後見制度について理解できるように内部研修を行っている。</p> <p>また、内容についても資料とともに回覧し、理解を深めている。</p>	
9	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>当グループの1番の目標に掲げている。全職員が高齢者虐待防止する為、内部研修を行い、理解を深めている。</p> <p>利用者の傷や異常を発見した場合は、日時、状況を詳細に記録するとともに、職員間で観察を充分行い、徹底的に追求している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者家族に理念、ケアの方針をパンフレットをもとに充分説明し、納得、同意を得たうえで契約を結んでいる。 退居の際には、利用者、本人に説明し、意向をうかがいながら、退居先の検討を行い支援している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から出た意見・苦情は報告書に記入し、管理者、職員間で話し合い、すぐ対処している。 また、苦情を上手に言い表せない利用者には行動、表情より察し、検討、改善にむけている。 建物内に公的窓口の紹介文を掲示している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金の請求書を郵送する際、担当者より近況を伝える手紙も同封している。面会時は必ず近況を伝えている。利用者が体調不良で緊急受診した際には家族に連絡し、納得頂いている。 金銭管理は家族面会時、出納帳をチェックしサインをもらっている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出た意見・苦情はすぐ管理者、職員に申し送り、検討し、改善に向けている。内容はケース記録、申し送り帳に記載している。 建物内に公的窓口の紹介文を掲示している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者受け入れに関しては入居指針にもとずき、事前に会議を行い、意見交換をしたうえで決定している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日勤者、早番、遅番、夜勤者も早番、遅番勤務体制をとり、利用者のケアに対応できる人員配置となっている。職員の急な勤務変更希望にもすぐ対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	今後の課題として取り組みたい。
19	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
20	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用の相談があった場合は、直接、本人及び家族より直接話を伺い、必要に応じて、市役所、居宅と連絡をとり、検討している。 本人、家族が不安や意向に対してもゆっくり時間をかけ話し合うよう心がけている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点から、利用者、家族とともに担当居宅とも情報をとりあいながらサービス内容を検討している。 また、対応できること、できないことを話し合い、対応できないことに関しては管理者も交じえ、家族、本人と歩みよれるよう検討している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族と意向や入所前の生活歴等基本情報をもとに、サービス内容を検討し、計画にもりこむよう心がけている。 また、環境の変化により混乱を最小限にするよう職員間で情報を共有できるよう、申し送り簿、ケースファイルを利用している。医療機関はなじみの所に通院できるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とするものを利用者、家族から伺い、庭木の手入れや調理の下ごしらえを職員と一緒にしている。 また、室内より外に出て体を動かすことが好きな利用者は職員と一緒に山菜とり等に出かけることもある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、利用者から家族に伝えられた情報を伺ったり、職員から利用者家族に、近況を伝え、情報交換をしている。 また、適宜、お互いの気付きをサービス計画書に組み入れている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に担当職員が利用者の近況報告を郵送している。また事業所の広報も発行、郵送し、行事参加の報告や近況を伝えている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族から、知人や親しい関係者を伺い、交流が継続できるように、通所介護に遊びに出かけたりしている。 また、利用者より電話連絡の希望がある時はすぐ対応している。面会、電話は24時間いつでも誰でも応じ規制していない。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同志談話したり、寄り添いながらくつろいでソファに座り過ごされている。 人間関係の悪化がみられる場合は2ユニットを開放状態にしているので、別ユニットのソファやテーブルに移動し、職員が間に入り対応している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や在宅生活に戻る為、契約終了になっても、本人、家族には必要時、相談に応じることを伝えている。 相談内容により担当居宅と連絡をとりあっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの会話から、思いや希望が聞けたら、ケースや連絡帳等に記載し、全職員が情報を共有できるようにしている。 充分把握できない時は、本人の表情やしぐさに気をつけ、穏やかな表情、落ち着いて過ごせる時はどういつか観察したり、家族より、本人の情報を聞き役立てている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人、家族、居宅より情報を収集したり、必要に応じ、主治医とも連絡をとりあっている。家族には、入居により環境の変化を最小限にし、今までの生活をなるべく継続するために必要であることを説明したうえで情報収集をしている。	○ センター方式を取り入れ、一人ひとりの生活歴や情報の把握に努めていきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事、睡眠、排泄、水分摂取のチェック表が個人別にあり、体調変化や、心身の状態把握ができるようにしている。	○ センター方式を取り入れ、一日の暮らし方、生活リズムを把握し、ケアに役立てていきたいと思う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は担当職員と話し合ったり、ケース会議時に職員同志、気づきや意見を反映させ、利用者本位の内容になるよう作成している。 家族面会時は家族より意向情報を得て反映している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間を明記し、各担当職員より介護実施記録を毎月提出し、支援、経過、モニタリングを記入している。 必要に応じアセスメント、モニタリングより計画を変更している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		
38	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		必要があった場合は利用していきたい。
39	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		今まではないが、今後このような事例がでた時は積極的に取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>専門医を確保し、相談している。 認知症の専門医に通院している。</p>	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師の資格をもつ職員がおり、バイタルサインや排泄状況を確認し、状態に応じて対処している。不在時は当法人内の看護師がかけつけ対応している。</p>	
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は基本情報の他、利用者に応じ認知症による問題点や生活レベル等についても情報を伝えている。また入院中は病状説明を電話もしくは直接家族、医師より伺い、ケースに記録し、早期退院ができるようしている。退院前には本人の状態を家族、医師より聞き、食事、排泄面等、個々に対応できるように支援している。</p>	
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、終末期は利用者家族・医療機関と話し合い今後の対応や連絡等について内容をケースに記録し、職員間で話し合っている。 また、結末期の家族の意向は、ケース及び計画書に内容を明記している。</p>	
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期は、利用者、家族、医療機関と話し合い、受診すべき症状や対処について情報交換し、内容をケース、報告書等に記載している。 また、内容は職員間で回覧し、周知している。</p>	<p>家族の意向を明確に記載している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている</p>	<p>別の居所へ移り住む際、家族、施設、もしくは居 宅のケアマネジャー、相談員等と事前に話し合 いをし、プライバシーに配慮した上で、情報交換を している。内容はケースもしくは会議録に記載し ている。 ダメージを最小限にするよう努めている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報には目につかないカウンターの裏の棚に保 管している。 利用者に対する接遇のマニュアルがあり、内部研 修として行われ、職員内でレベルアップを図っ ている。</p>	<p>プライバシーについて職員間で周知している。</p>
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている</p>	<p>入居時得た情報をもとに、ホーム内で生活してい るうえで新たにわかった嗜好品や趣味は、連絡帳 やファイルに書き、把握している。買物時は同じ ような商品でも本人に選んでもらったり買いたい 物を手にしてもらったりしている。自己決定して いる。</p>	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせ、食事時間をずらした り、内容を変えたりしている。 入浴時の希望も、できる範囲内で時間やお湯の温 度をあわせるようにしている。 起床時間、食事時間等規制せず</p>	
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている</p>	<p>能力に応じ、衣服を選び、更衣を自ら行えるよ う見守りしている。 自ら選べない利用者にも家族から得た情報から好 みの衣服で過ごせるよう配慮している。 希望に応じ、馴染みの理・美容室にも出かけられ るよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
52	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>もしどうしても飲酒したいと希望があった場合は、行事があった時は取組んでいってみたい。(正月、雛祭り、夏祭り)</p>
53	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>オムツはなるべく使用しないように自立排泄に取り組んでいる。</p>
54	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
55	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
58	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
59	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
60	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		家族に電話、手紙を応援してもらう。
61	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
62	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		管理者、職員一丸となり取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>専門家からの救命、延命の訓練に参加したい。</p>
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>主治医意見書や、定期受診の際、医師からの情報をもとに、ケース検討会議で検討したり、サービス計画内容に反映させている。 計画変更時、家族にも充分説明したり、面会時、適宜近況を伝え理解を得ている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>入所時、本人、家族、主治医より情報を提供してもらい個人ファイルに綴じている。また本人の身体状態に変化がみられた時は適宜記入し直し、職員間で情報を共有している。 体調の変化、異変時は記録し、申し送り、必要時すぐ受診をし、家族にも報告をしている。</p>	
71	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>各個人の処方内容は処方時毎回ファイルに綴じ、内容の変更は全職員が周知するよう連絡帳にも記入し、様子観察を強化している。 服薬確認はチェック表作成、内服箱には毎回服薬分を入れているので飲み忘れの防止になっている。</p>	
72	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック表を作成し、排便状態の確認を行っている。 また、内部研修も行き、便秘の予防として水分補給や必要に応じ腹部マッサージ等行っている。</p>	
73	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔ケアを毎食後行うようチェック表に記入している。 また、一人でできる方には声がけし、職員見守りで行ったりしている。しかし、強制はしない。</p>	
74	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量、水分量は各個人毎に毎回記入し、チェックし、把握している。 また、一人ひとりの健康状態にあわせ、お粥やきざみ食にしている。献立は同法人の栄養士より助言を得ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防、対応マニュアルがあり、随時、内部研修を行っている。 感染症に対する情報も収集し、職員間で話しあっている。 インフルエンザ予防接種は家族の了承のもとに行っている。		
76 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具等は毎回キッチンハイターや煮沸消毒、熱湯消毒を行っている。マニュアルあり実施されている。食材は先入れ先出しとし、食べる分量を調整し、次回に残さないこととしている。冷蔵庫内の管理担当者を決め、食材、衛生チェックをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の建具は木材を使用し、家庭的な雰囲気作りを心がけている。 玄関前、周囲に花々を植え、明るく、安心感がもてるように工夫している。		
78 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、建具は家庭的な雰囲気にしており、台所も一般家庭と同じような作りになっている。 テレビの音量は見ている利用者や、ホールでくつろいでいる利用者に随時聞きながら調節している。		
79 ○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや対面できるテーブル、椅子を配置し、テレビを観たり、気の合う利用者間で自由に過ごしている。 面談室は常に開放にしており、自由に行き来している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>○建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 生き生きとした、生活の場を目指している。
- ・ 拘束、虐待を行わないことを原則として、徹底的に追求している。
- ・ 健康管理を徹底し、異常時すぐ受診したり健康チェック表を各自作成している。